

民謡の奥深さにひかれ

気比民謡会

趣味とサークル

気比民謡会は日本民謡を楽しんでいる人たちの集まりです。

会の発足は昭和49年。現在、会員は敦賀市と美浜町の男女25人。女性が多く、夫婦で参加している人達も目立ちます。30歳代からリタイアした人まで幅広く、仕事で敦賀に永住した人も少なくありません。

会員には唄が好きで入会し、やがて伴奏の三味線などに触れて和楽器に関心を深めていく人も多いそうです。伴奏には三味線のほか尺八、篠笛（横笛）、太鼓、鉦も使われ、また馬子唄での鈴、舟唄などの船を漕ぐ音などの擬音は雰囲気を作る道具です。こうした伴奏も民謡の楽しみです。

2年に一度は発表会を開き、今年も11月16日、プラザ萬象で開催を予定。今は発表会に向けての練習にいそしんでいます。民謡には農作業の唄とか、尺八で唄う馬子唄、三味線で唄うお座敷唄など多くのジャンルがあります。発表会では市民に民謡の楽しさを知ってもらおうと色々な唄を披露するそうです。

一方、毎年、福井、石川両県の人達で競う大会が開かれていて、ここで好成绩を修めると東京・国技館での全国大会に参加できます。会長の新保松太郎さんは「レベルは高いですが、一度

は中央で唄ってみたいと、みんなの目標になっています」と話しています。

日ごろは福祉施設を慰問したり、市や地区の文化祭、公民館行事にも参加しています。また、中学校に三味線の指導に行くこともあります。生徒は珍



しがって熱心に取り組んでくれ、短時間のうちに、「さくらさくら」ぐらいは弾けるようになるそうです。

敦賀辺りの民謡では「すてな（柴田音頭）」が知られますが、「笠を忘れた敦賀の茶屋で…」で始まる「越前馬子唄」も知られています。また、「美浜ねばり挽き唄」という唄も親しまれています。

皆さんに民謡の楽しさを聞いてみると、「みんなに会えるのが楽しい」「ストレス解消」という声が返ってきました。また、「昔は演歌派だったけど、民謡は難しいところが面白い。三味線も、みんなで合奏すると何とも心地良い」とも。さらに「カラオケと違って、これは生バンド。生に合わせて唄うんやから、ほら気持ちいいですよ」とも話していました。

敦賀市では毎週火曜夜に粟野公民館、金曜夜に西公民館で市民を対象に民謡教室が開かれています。そこで気比民謡会の人達が指導をしています。新保会長は「民謡を自分のものにしてほしいなら、結構やらんとね」と奥深さを語りつつ、「民謡は楽しい。若い人達にも是非やってほしいですね」と話しています。

西福寺道標



敦賀市の気比の松原にある道標。

川崎、松原方面から来た道は松原小学校前でV字形に分岐しますが、ここで左手、市営野球場方面に少し進むと右手の道路わきに立っています。

高さ1.5m。頂部が四角錐（ピラミッド形）の角柱で、御影石づくり。「西福寺道 是ヨリ 西十五町」と西福寺への方向、距離が記されています。

碑文にある距離の一町は約109m。碑の裏面には「大正五年七月建之 寄附者 井垣三四郎 山田捨吉」と刻んでいます。西福寺は敦賀市原にある浄土宗鎮西派の中山。重要文化財の堂屋や国の名勝である書院庭園などでも知られる名刹です。

明治42年の敦賀の地図を見ると、気比の松原を東西に通る幹道はこの道標のある道となっています。当時は近くに敦賀商業学校が建っていました。

（参考 「続郷土の碑文展」 敦賀市立博物館）

像と碑
ぞうとしぶみ